



としょかんだより

令和7年11月

第6号

牡丹山小学校図書館

がつとおか げつ か きん
11月10日(月)～14日(金)

むし歯予防週間 とのコラボ企画

「歯、むし歯の本」を紹介します！



この期間、学校では歯や口の健康について考えるため、むし歯や歯肉炎予防のお話があるそうです。そこで図書館では保健室とコラボして、歯とむし歯の本を紹介し、図書館前にたくさんの本を展示します。

「どうして歯をみがかないといけないの？」、「正しいみがき方は？」、「抜けた歯ってどうしたらいいの？」など、「歯」に関する本はたくさんありますよ。

『たんけん はっけん じぶんの歯 正しい歯のみがき方』

丸森 英史／著、本の番号：490 あ



低・中・高学年ごとにわかれたシリーズ。1・2年生は新しい歯が生えてくるようす、3・4年生は、みがきにくい歯のみがき方、5・6年生は歯ぐきのチェックなど、それぞれの年れいで必要なポイントを写真付きでいねいに教えてくれます。自分の歯とくらべてみよう！

『はははのはなし』

かこ さとし／文・絵、本の番号：きいろ②



「歯が痛いとおとなだって泣いてしまいます。それならいっそ、歯なんかなければいいと思いませんか？」でも、歯がないとごはんが食べられない。食べないと体がやせて弱くなってしまう…。歯は私たちの健康を支えているのです。その大事な歯をむし歯にしないためにはどうしたらいいでしょう？この絵本を読んで考えてみてね。

『はがぬけたらどうするの？ せかいのこどもたちのはなし』

セルビー・ビーラー／文、ブライアン・カラス／絵、本の番号：きいろ⑧



「ほら、みて！歯がぬけたよ！」で…その歯は、どうするの？日本では、家の縁の下や屋根になげるというけど、アメリカでは机の下に置くと、妖精がお金にかえてくれるらしい。コスタリカでは抜けた歯に金メッキをしてイヤリングにするらしい。など、64 か国の抜けた歯にかかわる風習を紹介する絵本です。

『わにのはいた』

マーガリット・ドリアン／文・絵、光吉 夏弥／訳、本の番号：933 と



動物園に住むワニのアリ。歯が痛くなってしまい、園長のすすめで歯医者に行くことに…。行きたくないアリは、わかっていながら歯医者とは逆行きのバスにのってしまいます。ところが、バスでとなりに座って仲良くなった男の子のお父さんが、なんと歯医者さん！そんなことある？

『ぐらぐらの歯 きかんぼのちいちゃいもうと その1』

ドロシー・エドワーズ／作、酒井 駒子／絵、本の番号：933 え



お姉さんから見た、やんちゃでわがままないもうとの短いお話が入ったシリーズ。はじめて歯が抜けることを知ったいもうとは、ぐらぐらの歯を人に見せることを楽しんでいました。でも歯医者さんの存在を知って、歯医者さんに行きたくなってしまいます。クスッと笑えるお話。

保護者向け

としょかんだより



読書の秋、本に親しもう！



この時期になるとよく耳にする「読書の秋」という言葉。その所以は、中国の唐時代の詩人 韓愈の「燈火 稍く親しむ可く」という漢詩の一節だそうです。

「秋の夜は長くて涼しいから気持ちが良い。灯光の下で読書をするにはいい季節だ」といった意味です。秋の夜長、大人も子どもも読書に親しんでくださいね。